

---

# 愛が欲しい

綺葦

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛が欲しい

### 【コード】

N9751D

### 【作者名】

綺章

### 【あらすじ】

友里亜の波乱に満ちた人生。物語の結末は誰にも分からない

**prologue (前書き)**

グロ、エロ表現あり 苦手な方や、18歳未満の方は、ご遠慮ください

## prologue

みなさんこんにちは

私は、井塚財閥の社長秘書をしております  
二階堂友里亜と申します

今

目の前にいらっしやる方は、井塚洋輔様と云ってこの  
井塚財閥の社長をしておられます

25歳で権力、地位を手にし、かなりのイケメンと云うことで  
社長の周りには  
多くの女性が居ます

まれに、私も勘違いからトラブルに巻き込まれることがあります  
いい加減にしてほしいと申すのですが、社長はいつも笑ってごまか  
します

仕事をきちりとこなしてもらえるのは良いのですが、酒と女性が好  
きで

こちらとしては、面倒を見切れません

この間

辞表を差し出したのですが、読まずに目の前でビリビリに破かれ

「男にうつつを抜かしてる場合じゃない！」  
と

反撃されました

うつつなど抜かしてません

本文に

そのようなことなど書いた覚えもありませんし

私は

社長の面倒を見るのに嫌気がさしたただけなのです

本当に勘違いとは恐ろしいものですね

そして

何故か私は

会長と呼ばれ

今こうして社長と向かいあわせて座っているわけです

どうしたのでしょうか？「ホホウ。実はだね、君たちを結婚させた  
いと思っっている訳なんだよ」洋君と友里っち「

何故なんでしょうか？「おや、コホン、会長！勝手に決めないでく  
ださい！」

「何言ってるの？洋君。洋君のことなんだかんだで面倒見てくれて  
るのは友里っちだし？洋君のことよく分かっているのも友里っちでし  
よ？こんな女の人居ないよ？マジすげーよ？」

この間

面倒みきれないからって辞表出したのですけど…

「何言ってるんですか？そもそもあなたは

「だって～愛ちゃんがそうしなさいって言ったんだもん！」

出たっ！社長婦人！

「でもですね～」

「結婚しないなら、酒、取り上げるよ…」

「…分かりました」

社長…貴方は一体……

これから

どうなるのでしょうか？

## 井塚さん家

何故か私は

社長宅に連行されています（拉致しないで）

ベントツで移動中

まだ仕事の時間にも関わらず、会長の話を聞いて終わりだなんて……

お給料が…

「友里つち！お給料は減らないよ！それに、社長夫人になるわけだから！何でも買えるよ？」

「え！いや、その……」

何で分かるんだろう。

「そりゃ、あんな顔してりゃあなあ……」

恥ずかしいー！

「って、人の気持ちを代弁しなくても！」

プライバシーですよ！！プライバシー！

「そんなに嫌なら、お面でも被ったらどうだ？」 「そんなんだか

ら、社長は結婚できないんですー！」

いや、お前とするから！

（友里つちと洋君は仲良しじゃないか！良かった良かった！ウホホイ）……井塚家到着

うん

なんでしょうかここは、パラダイス？天国？  
とにかくここは日本ではないですよね？」

「とうした？早く入れよ」

「ここ、どこですか？」

「俺の家に決まってるんだろ？」

決まってるんですよ！！

「なあに？友里っちはビックリしちゃったの？」

「広いし、豪華だし、虎が居るし、

別に普通だろ？虎なんて」

あ、虎って普通なんだ…

「ライオンさんと熊さんと、キリンさんもいるよ」

そんなの飼えたんだ」

「なんか楽しそうですね〜アハハ」

ここは笑っておこう

「明後日にペンギンと狼が届くぞ」

マジカヨ！

「誰が

「ちよつとー？まだ上がらないのー？」

「あ！愛ちゃ〜ん！ただいまあ」

ああ、あのお方が社長夫人……

「友里ちゃん！いらっしやい〜狭くてゴメンナサイねー」



いや、広いでしょう？  
広いですよ！！

「広くなかないわー！狭いのよ？家が5000万坪なんて  
心読んだ」

しかもそんだけありゃあ十分！

「あ、友里ちゃんのお部屋、洋輔と一緒にだから」

いきなりきましたよお母さん

これから毎日が大変になりそうな予感です

手の早い男、井塚洋輔（前書き）

今回は少しエロ入ります

手の早い男、井塚洋輔

あれから私は

やたらとデカい玄関の扉を通り

これまたデカい部屋の中に通されました

そこまではいいのです

そこまでは、

……なぜ

なぜ私は天井を見ているのでしょうか？

そしてなぜ、目の前に

社長の顔があるのでしょうか？（顔近い…）  
恥ずかしいです！

「あの、何を

「夫婦になるんだから、同然のことだろ？」

さすが女好き！

つてか何さ！

「まだ、結婚してない……」

「心配するな、優しくするから」

そういうやつですか！

社長、あなたは言葉のキャッチボールという言葉を知らないんじゃないですか？

「その、

「愛のないセックスは嫌いか……（もちろん、愛はあるんだけどな）それに、初めてなんだから？」

なんなんですか！

（何で分かるの〜！！）

そんな言葉、軽々しく使うなんて〜

「社ちょ」

”社長！いい加減にしてください！”と言おうとして、人差し指で唇をチョンと押さえられた

そして、ニヤリと笑った

カッコいい…と不覚にもときめいてしまった

（もとの顔が良いからね）

「ん…っう、はあっ…」

考えごとをしているうちに、唇を……！！

うっ、息できません

逃げたいけど、頭の後ろに手があって無理！

誰かヘルプミー

チュツ

「っはあ…はあ…ケホツ」

唇が離れた、助かった〜

不意に目があった

社長の顔はいつものすかしたそれではなく、大人の男の顔をしていた

私は、社長から目が離せなくなっていた

手の早い男、井塚洋輔（後書き）

次回はもっとエロくなる予定です

正に、その最中（前書き）

性描写、リアルです。

## 正に、その最中

社長は目を伏せると、私の首に口づけ始めました

「ん……っ……あっ……」

何でしょうか？このゾクゾク感は…

「はう……」

次第に私の左胸をもみ始め……

あれ、ここでこんなことしてていいのかな……

「じゃ、社長」

「ん？」

顔を上げた社長の目はトロンとしていました

「誰か来るんじゃない」

「ここは俺とお前の部屋だから、誰も来ねえよ  
それに、鍵かけてあるしな……」

ああ、そういうこと……

計算高い男だ

「ひゃあっ……」

手が乳首に当たって、つい声を荒げてしまった

「お前、初めてなのに凄い反応してるな……」



だって、気持ちいいんだもの……

「肌、綺麗だな」

そんなこと初めて言われた

ペロッ

「んあ！……う……」

チュパ

「い、いやあ……」

ダメ、なんか変だよ？私

「クスッ……そんなにいい？」

良いとか悪いとかの前に、おかしくなりそう

しかも、太股に手が移動して行ってるし……

ググッ

「あ……ん！いやあ！やめっ」

私のあそこに指があ……

「又レ又レだな……」

クチュユ……

「ああ！や、やめっ！んはっ！」

直に触られると……

「一本でもキツいな……」

グチャグチャ

「やめて！……つかき回さないでえー」

「いいんだろ？もっとしてやる」  
この人Sですよね？

又チャ又チャ

「はっ……………！！」

ピクピク！

「なんだ？もういったのか？クスクス」

体が動かない…

ぼーっとしてる……………

「なあ、もういいだろ？挿れさせてくれよ……………我慢できねえよ……………」

そんな、子犬のような顔をされちゃあ……………

”コクリ”と頷いた

「力抜けよ……………」

ああ、ついにこの時が来た……………年齢〓処女歴  
さようなら！

グググッ

「いつ……………」

なにこれ！やだ！痛いよ！

「力抜け！力みすぎ！」

痛いもん！出来ないよ！

「無理い…」

ブツリ…

なんなの今の感覚は…  
中が切れたのかな…

「入ったぞ…」

社長、苦しそう…

「痛い、です」

「しばらく、このままな？」

そういわれて、抱き合ったまま数十分過ぎました

「動いていいですよ…痛くないから…」

社長は、にっこりと微笑んでくれましたためちゆ  
少しずつ、少しずつ、社長は動き始めました…

初めは痛かったけど、だんだん快感が体を支配していきました

パンパン！

「はあっはあっ！」

二人の息が重なりあって、興奮する

ギシッ、ギシッ

「ああ、もっっ！」

「イクぞ」

二人一緒に達した…

越えてしまいましたよ」

なんだか、とても体が重いなあ……

ふ、と目を開けると

これまた、なんとも気持ちよさそうな顔した社長の顔が……  
(寝てるよ)

なんか、部屋の中暗いなあ……

「ん……」

あ、起きた……

「おはようございます。社長」  
笑顔で話したら、

「……………」

え、無視？

せっかくこの雰囲気はどうにかしよう……

「名前……………」

名前？まさか、私か誰か分からないとか？

「名前で呼べよ……夫婦なんだから」

いやね、まだ夫婦じゃないって……

「式は明日挙げるからな」

早くない?!

おかしいよ

「ってか、いつの間に？」

「ドッキリサプライズだ。」

真顔で言われても反応しがたいんですけど……

「とにかく、明日は早く起きないといけないから、これから晩飯食  
いに行くぞ」

何時かと思つて時計を見れば、7時18分だった

あれから五時間近く経つたんだ……ついに私も結婚か……  
しかもあの女好きの社長と……

あれ、ちょっと待って

女好き+イケメン〓周りに女が耐えない〓彼女、或いは愛人が居て  
もおかしくない〓私って……  
どーなるの？

体裁を良くするための女？

あららら？

深刻に（これでもね）考えている私をよそに、社長は私の肩を抱いた

「何、悩んでんだよ。マリッジブルーか？」

ある意味当たりだよ

「あの、前々から思ってたんですが、彼女さんは大丈夫なんですか？」

「……？なんだよ、それ」

間抜け面……

「だって、彼女……」

女好きだし

「強いて言うなら、それ、お前？」

疑問系か、アンタ。

「あ、婚約者かー」

何が言いたいんだ！

「俺の世界は、お前中心なんだよ。」

ほかの女にも言ってるでしょうよー！！

だってさ、あの女好きな、社長だよ？

（失礼）

思ったけど、私、社長に対して、恋愛感情が無い！

なな、流れにまかせて抱かれてしまったしー！！（気づくの遅い）

もしかして私、後に戻れないのー？（そりゃあね）

## 来る朝

「りあ…友里亜、早く起きろ！」

ん…まだ眠いよ…

「あと五分…グー」

”起きないと、濃厚なキスするぜ？”

「う…んわ！耳があ！」

耳元で朝っぱらから変なこと囁くなよ！！

「早くしねえと、式に間に合わねーよ」

「……式って、お葬式

「いっぺん死んでみるか？」

ニヤニヤしながら言わないでほしい…

「結婚でしたよね？」

「良くできました。さて、飯食うぞ！」

元気だなー

「そうだ、その前に」

社長じゃなくて、洋輔さんが私の顎に手をかけた。

ん？あれ、えつとーこれは……って顔が近づいてきた！

ん、



初めは軽くだが、次第に深く、舌を絡めとる  
クチユ、ピチャ

「はっ……っん、ううん…あ、」

キスうまい…馴れてる

酸欠になるよ……

ちゅ

「はあ、はっ…ふう…」

やっと唇が離れたので、酸欠から解放された

「へたっぴ」

そう言つて、洋輔さんは、怪しく笑い、私の唇をなめた

／／／／／な、なんなの！

かっこ良すぎ…

「たてる？」

「あ、うん」

……、あれ？

立てない…力が入らないよ…

「そんなに良かったんだ？俺のキス」

「いや、そんなこと

「こっちおいで？」

…バカにされてないか？ゲイツ、

「連れてつてやる」そう言つて、お姫様抱っこされた（恥ずかしい

！）「あれれ〜？二人ともラブラブだねえ〜」

げっ！会長！

（なんで部屋の前に居るんだよ）

「おはようございます…」

「昨日は励んでみたいだね〜僕たちには負けるだろうけどね〜毎夜だし」

会長&夫人！4 才にして毎夜励むとは…

「そのうち、洋君に兄弟できるかもね〜」

マジですか〜！！

「俺たちは最低10人な？」  
「んなに産めないよ！！」

なに考えてんだアンタは！

「あ、早くしないと愛ちゃんが怒るよ〜」

この後、地獄の朝食が始まる

## 嵐の前のなんとやら

「見てみて！愛ちゃん！二人ともこんなにラブラブになったよ」  
食堂（？）に入るなり、会長が……

（メイドさん達まで見てるー！）

「あらあらあゝイチヤイチヤしちやって！」

「／／／離してくださいよー！」

「いや、無理だから」

穴にはいりたいよ！

ん？なんだこのやたら熱い視線は……

おおよ、とても綺麗な女の人……から発せられている

「ああ！そうそう！まだ紹介してなかったわよね」

まさか、愛人ではないですね……グスン

「この子は洋輔の姉の弥生よ！」（ほほう、兄弟そろって美形とは……）

「さあ、みんな早く席に着いてよ！腹減りすぎて目眩がするじゃん」

「そおだね、友里っちと洋君も席について？あ、愛ちゃんは僕の膝の上ね」

（ら、ラブラブ？）

「貴方が友里亜さん？よね」

話しかけられた！

って、

とてつもなく眩しい！！！！

なんてことだ！

「初めまして…」

洋輔の姉の弥生です。

よろしく（＾―＾）「眩しい！おおお、お姉さま！

近くで見るとヤバい！

素敵！美人！小顔！脚長！

「はは、初めまして」（声ひっくり返った）二階堂友里亜、24才  
です！」

「仲良くしてね（ニッコリ）」

「ほい！！合点しました！」

「（ほい？）面白いわね〜」

ボソッ

「なあに緊張してんだよ…もしかしてお前、そっち系？」

「何を申されますか！」

「いつの時代の人間だよ！！」

「お母様：あの子、ナイスです（good）」

弥生は、隠れて親指を立てた

「でしょでしょ？これからがた・の・し・みよ（ウインク）」

友里亜の平和は、この瞬間から崩れていくこととなる

そんなこと聞いちゃいけません！（前書き）

エロ話です。

そんなこと聞いちゃいけません！

「ところで友里っち達は、どこまでいったの？」

「うお父様！今は食事中…」

「私たちみたいに励んじやったんでしょ？（ニヤリ）」

「洋輔？友里亜ちゃんがかわいそうよ？鳴かせたい気持ちは解るけれど…」

「なんですとー！」

「お姉さまもしかして、ソツチ系…」

「コイツ喜んでたんだから良いだろ？すぐにガキも孕むだろうしな」

「あんまりうるさくしないですよ？そっちであんあん盛ってるよね、ダーリンも猛獣になるんだから」

「生々しいっ！」

「着いていけない！」

「つて…あれ、ダーリン？」

「お姉さま、人生の伴侶がいらっしやる…？」

「察しがいいわね〜そうなの。二年目よ」

「今は、出張中なんだよ〜」

「そうだった…」

「そんなことより、二人の営みの状況を！」

「まだ聞くんですか！」

「コイツ、入れる前に何回もいったんだぜ？しかも、ヨがる声がたまんねえんだよ」

なななな、何をー！

「愛ちゃんもエロいよね〜？良いところ突くと、すぐイっちゃうし〜、腰使いヤバいし〜」

食事中よね？なんか、明るいうちに話す内容じゃない気が……

「友里亜の方がヤバい」

「愛ちゃんだよっ」

何なんだろう、この家は……「話変えちゃうけど、二人よりダーリンの方がテクはあるわ！」

真顔でそんなこと言われましても……

「俺は15秒でコイツをイかせた」

「僕12秒〜（にんまり）」

「早けりゃいいんじゃないのよ！ー愛と腰使いよ！ー！目が炒ってます！

「デカサも関係有るだろ？」

「堅さでしょ〜？」

「愛撫よ！ー！」

「ホントのエクスタシーを感じたことないんじゃないの？」

あの、皆さん？私の存在、忘れていませんか？

「もう！信じられない！私はダーリンと二人だけの世界を築くわ！」



お姉さま……頑張つて…

「俺たちも一日にやる量を増やすぞ」

目！目がヤバい！

「程々にね？」

「聞き耳立てながらやるつか」

「それも良いわね」

私、生きていける？

大丈夫？

「今日も沢山イけよ？」

「あははは」

人生の岐路に立っております！

移動でgo!

やたら生々しいお話を終えた私たちは、ただいま車にて式場に移動中です

「洋君、ウエディングドレス姿の友里っち見たら、鼻血出しちゃうんじゃない〜?」

悪い意味でぶっ倒れると思います!お父様!

「あら、やあねえ〜洋輔なんだから、そんな程度で済むわけ無いわよ〜」

そんなってなんですか?

お母様、何なんですかー!

「そうね、その場で押し倒すわよ、ねえ洋輔?」

今、普通に、異常な言葉を発しませんでしたか?お姉様ー!!

「公開プレイか……S心に火がつくな……」

ナイナイ!そんなの有り得ない!

「皆様、本当に仲がよろしくてなにより……」

運転手さん?

なんかズレてますよ〜?

「あなたにも解る?あれよね、裸のつき合いみたいな……」

「それは、僕と愛ちゃんの仲のことでしょ？」

気温差、凄いですよ…

「やーん！恥ずかしいわ」バンバン！

ちよっ、お母様？

車の一部、剥がれてますけど…

それがお父様の頭に直撃してますけどー！？

頭から血が出てるのに笑わないでー！

「愛ちゃん、なんか僕、興奮してきちゃった…」  
堂々のM宣言！？

「ホテルで癒してあ・げ・る！」

「私もダーリンに電話で癒してもらおうと」

「俺のことも、癒せよ？友里亜…」

いやいや、あなたたち何の競争してるんですか…

「私も仲間に入れてください」

だから、運転手さあーん！！

「後一時間もかかるのね…、eroticismな話をいっぱいしましよう？ほら、友里亜ちゃんも！」

目を輝かせないでください、お姉さま…

早く、式場に着かないかなあ…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9751d/>

---

愛が欲しい

2010年10月28日06時59分発行